

Q

「くるりん」の運行区域を隣接地域に拡張できないか

A

他の運行業者等への影響を考慮する必要がある



あきひろ ひで 秀 明
やま 出 山



映像は
こちらから

Q 「コミュニティバスくるりん」定時

定路線の今後の運行区域について、隣接する地域に拡張できないか。

A 隣接する自治体との広域的な連携を図り、運行区域を拡張することは相互住民の利便性向上の観点から大変重要なものと考えている。しかしながら、広域的な公共交通の維持確保の観点より、他の運行業者等への影響を考慮する必要があることから、現時点では実現は難しいものとして認識している。今後、隣接する自治体や民間バス事業者との連携を図りながら、調査、研究を重ねていく。

●新一万円札発行前夜祭について

Q 「新一万円札発行前夜祭」カウントダウンセミナーにおいて、0時に合わせて花火を打ち上げる可能性はあるのか。

A 当初、建物内と建物外の両方で



A 打ち上げるには安全を確保するための建物がなく最低でも半径40mを確保する必要がある。午前9時は授業中などであることから打ち上げは困難であると思われる。号砲花火の打ち上げは多くの市民に新札発行を知らせ発行当日の祝賀ムードを演出するための有効な手段と考え、場所と時間を決め前向きに考えていきたい。

Q 新札発行は千載一遇のチャンス。7月3日午前9時に号砲の花火を打ち上げてはいかがか。

A 打ち上げるには安全を確保する

Q

各自治会からの要望等の要望における本市の対応は

A

多くのご要望に添えてまいりたいと考えている



ひろし さかもと 博 本



映像は
こちらから

Q 道路関係、街灯、カーブミラーの要望について、過去3年間のそれぞれの総件数は。

A 道路拡幅や側溝、舗装などの道路整備に関する要望は、117件、道路照明灯設置要望は、210件、道路反射鏡設置要望は、93件となっている。

Q 未処理の件数について、今後の対応は。

A 各要綱や設置及び管理基準に基づき、整備や設置の必要性及び効果を評価しながら、地域バランスにも配慮しつつ、少しでも多くのご要望に添えてまいりたいと考えている。

●身寄りのない高齢者について

Q 高齢者のみの世帯数と、その内、単身高齢者世帯数は。

A 65歳以上の高齢者のみの世帯数は18,573世帯、その内、単身

◆各自治会からの要望件数に対しての未処理の件数
※合併後の平成19年度から令和5年度末までの過去17年間

	要望件数	未処理件数
道路整備	1,274	564
道路照明灯	1,005	184
道路反射鏡	644	131

高齢者世帯数は10,327世帯である。

Q 今後、身寄りのない高齢者の増加が考えられるが本市の対応は。

A 地域に暮らす誰もが尊厳のある生活を維持し、安心して歳を重ねることが出来る社会を作っていくことが重要と考えている。そうしたことから、終活セミナーや深谷寄居医師会と共催で、ACP普及啓発教室を実施している。

Q

市として文化財の管理・保護について何をしているか

A

各文化財を保持している団体が管理をしている



おかし 岡 仁



映像は
こちらから

Q 指定している文化財はどのくらいあるのか。

A 無形文化財は県指定1件、市指定25件、有形文化財は国指定3件、県指定10件、市指定158件ある。

Q 無形文化財の所有者等に対する補助制度は。

A 後継者育成に必要な経費に対し、県指定は保存事業費から県補助金を差し引いた残額の2分の1以内、上限8万円を補助し、市指定は、補助事業の2分の1以内上限6万円を無形文化財の保持団体に補助している。

Q 後継者育成をするための必要経費とは何か。

A 練習や本番で使用する道具の購入や修理、衣装のクリーニング、指導テキストの印刷等費用である。



A 市内中学校2年生で、令和5年度はのべ約300事業所において、3日間の職場体験学習を行っている。

Q 市として子供たち、若者たちに対しどのような職業体験を行っているか。

A 市内中学校2年生で、令和5年度はのべ約300事業所において、3日間の職場体験学習を行っている。

●高校生に対し就職支援をどのようにしているか

Q 高校生に対し、市としてどのような就職支援をしているのか。

A 埼玉県北部地域合同企業説明会を実施している。本年度は146の企業（ブース）と、660人の高校生たちが参加した。

Q

公園遊具について、市全体の整備計画で行っては

A

市民ニーズを把握し、公園全体の中で検討



こま 五間 くみ子



映像は
こちらから

Q 児童遊具の設置数は。

A 公園緑地課の管理している公園は118か所で332基である。

Q 更新のタイミングは。

A 公園遊具は、毎年安全点検を行い、自治会との協議により更新。

Q 健康遊具の設置数は。

A 榛の森公園を中心に23基。

Q インクルーシブ遊具は未設置とのことだが、今後の設置も含め、時代の変化を考慮し、児童遊具・健康遊具とともに、公園遊具の整備計画を立てて更新・設置していくべきと思うが市の考えは。

A 子育てに力を入れている深谷市である。児童遊具をはじめ、公園全体のあり方の中で、検討していく。

●さらにごみの減量化を図るには

Q 集団回収の登録団体は。

A 登録団体277団体。



健康遊具（内出公園内に設置）

A 再度の制度化については、他自治体の実施状況、費用対効果等を含め、調査研究していく。

Q 平成23年に廃止した当時とは、市民の意識に変化があると思う。再考をしていく考えは。

A 再度の制度化については、他自治体の実施状況、費用対効果等を含め、調査研究していく。

Q 今後検討していきたい。

Q 生ごみ処理機の購入補助金、県内の状況は。

A 63団体中、38団体で導入。

Q 平成23年に廃止した当時とは、市民の意識に変化があると思う。再考をしていく考えは。

A 再度の制度化については、他自治体の実施状況、費用対効果等を含め、調査研究していく。